

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1174600443		
法人名	有限会社アートコーポレーション		
事業所名	グループホーム さくらホーム		
所在地	最多県深谷市上野台104-1		
自己評価作成日	令和4年12月7日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設して20年近く経ち、地域の方々とも関係が築けております。小さい施設ですが利用者様変化にすぐ目が届き利用者本位の支援を第一に和気あいあいと日々過ごされています。また食事は食材から買い出しを行い毎日手作りの食事の提供を行っています。医療との連携もスムーズに行えており、急な体調不良や夜間の急変にも24時間すぐ対応できる体制をとっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・理念は当たり前のことと捉え、慣れからくる溜口や上から目線での話し方に注意を払い、行動を制限するのではなく傾聴に努め、優しい声掛けと共に安全を担保して寄り添うことで、利用者1人ひとりの思いを叶えるように支援をされている。  
 ・運営推進会議は、多方面の参加を得て開催され、運営に活かされてきたが、コロナ禍で困難となり、事業所の状況報告を会議のメンバーに送り、意見を伺うことで代替えとされている。今後のコロナの終息を見据えて、対面での開催の検討が行われている。  
 ・目標達成計画については、年6回の訓練が行われ、2回の総合訓練では、通報～消火～避難を行い、車椅子利用者が避難し易いように避難口に近い居室へ移っていただくなど、訓練の結果を活かした改善も行われ、法人本社内ではBPC(事業継続計画)が作成中であることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	施設の玄関や事務所、居間等に掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。また業務で行き詰った時には会議や個人面談等で理念を踏まえて話をしている。	理念は当たり前のことと捉え、慣れからくる溜口や上から目線での話し方に注意を払い、行動を制限するのではなく傾聴に努め、優しい声掛けと共に安全を担保して寄り添うことで、利用者1人ひとりの思いが叶えられるように支援をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の散歩、日光浴等で近隣の方へのあいさつや会話をしている。コロナ前は地域の行事にも参加していた。	コロナ禍で夏祭りなどの地域の行事への参加や交流がなくなり、外出の制限も続く中、散歩や外気浴時に挨拶を交わしたり、近隣の方から畑で採れた野菜や果物、落花生などをいただくなど、地域との関係の継続が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関するパンフレットを作成して地域に配布し認知症の理解、早期発見、対応等を啓発している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナの影響により対面式ではなく書類を送り、質問等があれば連絡をいただくような形をとっています。	定期的に開催されてきたが、コロナ禍で困難となり、事業所の状況報告を会議のメンバーに送り、意見を伺うことで代替えとされている。今後のコロナ感染の終息を見据えて、対面開催の検討が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の出席依頼や運営時の相談やご家族の質問に対し行政の担当者に確認をとったりしている。	市の関連部門や大里広域圏組合とは、報告書を届ける他は、主にメールや電話で質問や相談を行い、適切に対応していただいております。コロナウイルスに関するこの情報共有も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し年に4回の研修を実施し、職員の意識、行動に反映させている。夜間以外はすべてオープンになっており自由に出入りできるようになっている。	身体拘束廃止マニュアルが作成され、2～3ヶ月に1回の研修が行われ、寄り添うことで、利用者には行いたいことを行っていたり、言葉使いにも注意が払われ、身体拘束を必要としない支援が行われている。また、玄関も施錠はされず、気候・天候の良い日は、開け放たれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部新任研修に必ず学ぶこととし、研修を行っている。また、虐待防止マニュアルを作成しており職員会議や業務中に虐待防止意識を徹底して行動させている。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のケアマネ協議会や外部研修に参加し知識を深める機会を持っている。また新任研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安・疑問に対して十分な説明を行い、納得していただけるよう心掛けている。退所時でもできる限りの支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との関係が出来ていて、日常的に不満や苦情、コンプレイン等を気軽に言える関係になっており利用者が納得いただけるように常に対応している。また、ご家族には連絡を密に取り、訪問時に意見・要望をお聞きしている。	利用者とは、日頃の関わりの中で、家族とは、家族の来訪を促すため、あえて請求書を発送し、支払いでの来訪時は、時間をかけてコミュニケーションを持ち、コロナ禍ではあるが、意見や要望が日々の支援に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や業務中のOJTをうまく活用して職員の意見を抽出している。その現場の声を管理者会議で議題に挙げ、運営に反映させている。	職員会議での意見や要望は、現場で対応できるものは現場で対応され、そうで無いものは法人の管理者会議で検討する仕組みが作られていると共に、職員と管理者が話し易い環境もできており、事業所運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を活用して個々の努力や成長した点や課題を明確にし、一部賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オリジナルの研修を行い、社会人としての心構えや業務に取り組む考えなど自己啓発や気づきを与えられるように資料や口頭で取り組んでいる。また、個人面談を活用して職員の能力の達成度や目標を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネ協議会やGH協議会などの研修や交流会、に参加し、情報交換・サービスの質の向上に取り組んでいる。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時より具体的に説明するとともに、アセスメントを重視し、ご本人の思いを受け止めている。また日常的に意見・要望を聞く機会を持ち、希望に沿った支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、ご家族の要望を聞き、ご家族に安心していただけるよう努めている。また訪問時や連絡等の際にも適時要望等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のニーズに合ったサービスの提供に努め、適時見直しを行いサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側・する側という立場ではなく、対等であることを徹底し、出来ることはやっていただき、職員が教えていただいたり等、共に支えあう仲間としての関係になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時等、ご家族と共通認識を持ち、共にご本人を支えていくという考えを説明し、ご本人の生活について共に考え、話し合いを行っている。現在はコロナにより面会は中止。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご高齢のため、少なくともはなっているが、知人・親族等の訪問もあり、一緒に談笑したりされており、馴染みの関係が途切れないよう配慮している。現在はコロナのため極力面会は避けている。	コロナ禍で、馴染みの人との面会や交流が制限される中、高齢化も進行しているが、電話だけでなく、LINEの映像通話などで、お互いの顔を見ながら話していただくなど、馴染みの関係継続の手助けが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は良好で、互いに支えあい、時に職員が潤滑油となり、良い関係が築ける環境作りに努めている。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全ての利用者と言うわけでは無いが、野菜を持ってきて頂いたり等契約終了後も関係が継続している家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に掲げている通り、利用者本位のケアと、その方の思いを実現できるサービスの提供に努めている。意思表示の困難な方には、職員間で話し合い、ご本人の立場に立ったサービスの提供に努めている。	夜間を利用して傾聴の時間をゆっくり取り、少しの表情や行動の変化をよく観察することで、意思疎通の困難な方の要望や好み、生きがいなどを汲み取り、出来ることは、できるだけ実現できるように、本人本位に検討がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや生活歴をお聞きするとともに、その後もご本人・ご家族から情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1度のカンファレンスを中心に、日常の中で連絡簿や介護日誌を通し、情報交換を行い、統一したサービスの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通し、介護計画の見直し、モニタリングを行うとともに必要に応じてご家族と連絡を取り合って見直しを行っている。	全職員でのモニタリングが行われ、それに基づいたカンファレンスが実施され、利用者や家族の要望と医師や看護師の意見も得て、介護計画が作成されている。また、1人ひとりの変化に応じて、適宜、見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、連絡簿での申し送り事項を記入し、情報を共有している。また、状況の変化に対しては、カンファレンスを通し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院や通院等、ご家族に変わっての医療機関の様子を伺い、ご家族に連絡や衣類の交換等、ご本人やご家族の要望に応じてできる限りの支援に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の利用者の状態や受け入れ環境に応じた対応をしている。また、自治会の役員や地域包括支援センター職員の協力を仰いでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の高齢化に伴い、大半の方が訪問診療に契約され、365日・24時間の医療支援体制をとっている。また、体調の変化に応じ主治医と連携を取り、健康管理に努めている。コロナ感染時はこの体制が非常に大きく、状態悪化を免れた。	24時間対応の訪問医療機関を利用される方が多く、入院などの場合は、医師から病院へスムーズに手配していただいている。また、専門医の受診も職員が付き添い、情報の提供や受診結果の把握が行われるなど、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制による、週2回の看護師の訪問により、少しの変化もすぐに報告・対応できている。また、看護師から主治医へも報告も適時できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医が入院設備のある病院の系列のため、訪問診療時等に、入院に関する情報・経過等常に相談・連携できしており、病院スタッフとも適時連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を主治医とも検討し決定している。ホームでできることを明確にし、職員に周知徹底し、指針を共有している。また、該当家族には主治医を交えて3者で終末期の対応の検討をしてご理解を頂いている。	入居時に、終末期に事業所ができることを利用者・家族に説明され、重度化の場合は主治医と連携を取りながら家族との話し合いを重ね、看取りを含む、最適と思われる選択をしていただけるように、努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルの徹底、職員の気づきの重要性を周知している。また、外部の救急救命講習で応急手当の方法等学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー・通報器を設置するとともに、年2回総合訓練、年2回の避難訓練、年2回の設備点検など行っている。また本社主体で現在BPCの作成にとりかかっている。	年6回、種々の訓練が実施され、2回の総合訓練では、通報～消火～避難が行われ、車椅子利用者が避難し易いように避難口に近い居室へ移っていただくなど、訓練の結果を活かした改善も行われており、法人本社ではBPC(事業継続計画)が作成中である。	訓練の結果で改善も行われています。災害時は予期せぬ事が生じる可能性も考えられます。いざという時に迅速で確実な行動が取れるように訓練の継続と地域協力が得られることが期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみと慣れの区別を付け常に人生の先輩という意識を持つよう心掛けている。	他人に聞かれたり、見られたりしたくないことには、言葉使いや羞恥心に配慮した対応がなされている。また、居室に入るときは、ノックと声掛けにより許可を得てから入るなど、利用者の尊厳が守られた支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に希望や要望を自由に表現出来る環境を整えており、できる限りご本人に納得していただけるよう説明し、自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	『利用者中心』の理念の徹底や内部研修・職員会議等を通し、ご本人のペースを守り、希望を優先するよう徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの訪問理容を利用し、会話を楽しみながらご本人の希望の髪型にってもらったり、洋服などもご本人と選んでもらったり、ご家族の協力を仰ぎ買い替えの協力をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の意見を献立に取り入れたり、利用者様と一緒に食事作りを行い、食事が楽しみになるように提供している。	職員が利用者の嗜好に合わせて作成した献立を基に、食材の買い出しを行い、職員の手作りによる家庭的な料理が提供されている。また、昼食時などに、ホットケーキや恵方巻作りなども行われ、多彩な食事を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算に基づく献立を始め、食事摂取状況、水分摂取量等も記録し、1日を通しお一人おひとりの状況を確認し、排泄状況も含め、個々の状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施し、お一人おひとりの口腔内チェックと確認、支援を実施させていただいている。また、週に1回、訪問歯科を利用して口腔処置ケアを行っている。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中帯は極カトイレでの排泄に努めているが夜間帯が重度化に伴いオムツの使用が多くなってしまっている。	利用者の状況に応じて声かけや誘導を行い、日中は、トイレ排泄を原則とされ、夜間は、オムツの利用も増えているが、1人ひとりに合わせて選択した対応が行われ、適切な支援により、夜間でもトイレ排泄ができる方も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の排泄リズムや水分摂取量を常時チェックし、飲み物や食材等の工夫するとともに、主治医とも相談し、服薬調整や運動も含めた便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてしまっているが、その日に気持ち、体調が優れない日には翌日に変更する等柔軟に対応している。また入浴時の1対1の時間を大切にコミュニケーションを図っている。	週2回を基本としつつも、風呂は毎日沸かし、希望や体調に応じた入浴がなされ、介護度の高い方は職員2人での対応も行われ、安全で安心な入浴を楽しんでいただいている。また、拒否者には声掛けやタイミング、日にちを変えるなどの工夫で、気持ちよく入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動等を大切に、生活のリズムを整え安眠していただけるよう支援している。また午睡も希望やご本人の状況により行っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作り、全職員が薬の状況を理解し、服薬方法を統一し、状況の変化にも早期に発見、確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の習慣や生活歴の中から、喜び・楽しみとなる役割をやっていただいたり、ご本人なりの楽しみとなることを見つけ、張りのある生活の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近年はコロナの影響により外出は控えている。外部との接触を避けて公園や散歩は少しではあるが再開している。	高齢化に加えてコロナ禍で外出が困難な中、散歩や通りがかりの折に、近隣の方々と挨拶を交わしたり、短時間のドライブ、ベランダでの外気浴や日光浴、食事など、外の雰囲気を感じていただくことに努められている。	

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	了承を得て職員管理とさせていただいているが、コロナの影響により現在はご本人によるお金を使う機会がなくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が出来ない状況のため電話や手紙のやり取りを行っている。毎年年賀状には本人にコメントを入れてもらうようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、限られてしまうが、利用者が生活感・季節感を感じていただけるよう季節の風物を皆さんで作り飾ったり、季節の草花を生けたり等、工夫している。	利用者と職員と一緒に作った作品や装飾、季節の花などが飾られたリビングは、談笑をしたり、昼食後の休息を取ったり、思いおもいに寛げる場となっている。また、オゾン発生器が設置され、空気の清浄化にも努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設自体が小さいため共用空間がほとんどなく、独りになれるのは居室だけとなっているが、居間等で皆で楽しく過ごせるような配慮や工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が好きなよう使っていただき、レイアウト、調度品もご本人の自由にしていただいている。またご家族とも相談し、使い慣れたもので用意してもらっている。	使い慣れた日用品や家具、寝具に、家族の写真や孫から貰った絵、思い出の品などが持ち込まれ、入居以前の環境が伺える部屋となっている。また、1人ひとりの状況の変化に応じて、配置や収納の見直し、整理整頓が行われ、安全で居心地のよい居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー・手すりを設置。トイレ・自室入り口には気に入ったご自分の写真や飾りをつけ困らないよう配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名:さくらホーム

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 3月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	日中、夜間を想定して避難訓練を行う。また、総合訓練を通し一連の流れや動きの把握を行う。	緊急時に備え、何度も繰り返し行うことで慌てず避難、対応ができるようにする。	夜間帯に数名職員に残ってもらい、少人数の誘導を時間も計りながら確認精査する。後日、日中帯の職員も交えてフィードバックを行う。消防署立ち合いの総合訓練では、普段疑問に思うことを直接伺い、より現場での対応に近づける。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。